

令和5年度 幼児教育研修（年齢別担任研修5歳児・第1回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

日時：令和5年5月30日（火）15:00～17:00

会場：足立区生涯学習センター

講師：和泉短期大学 教授 松山 洋平 氏



これからの教育・保育 ～教育の転換期～

昔

大人主導・覚えさせるだけの教育

子どもは、何もできない存在
知識・技能の習得を評価
正解を出すことを求められる

今

子ども主体・自ら学びに向かう力

議論や体験学習を通して、
自ら学ぶ方法を身に付ける
＝アクティブラーニング

学びを変えていこうと
教育界全体が動いている

予測できない社会を生きる子どもたちには、未知の課題に向き合い、切り拓く力が必要

架け橋期プログラム

幼児教育

遊びを中心とした生活を通じて、
生涯にわたる人格形成の基礎を培う

- 環境を通して行う教育
- 子ども主体の遊びを通した学び
- 遊び込むことが大切
→学びに向かう力が高い
- 質の高い教育・保育は、子どもの成長や国の経済にも大きな影響を与える
- 一斉保育よりも、主体的な保育を受けた子どもの方が語彙力が高い

5歳児から小1の2年間

主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で、すべての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すもの



幼保小連携の強化

育成すべき
資質・能力の明確化

10の姿

共通理解し合う
ための視点

3つの柱

生涯にわたる
生きる力の基礎

小学校教育

自分の好きなことや得意なことを
活かしながら、学びや生活につな
がる力を育む

- 幼児教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた教育活動
- 児童が主体的に自己発揮しながら学びに向かう
- スタートカリキュラム
→幼児期の育ちや学びを基礎として、生活科を中心とした合科的・関連的カリキュラム
→幼児期の「学びの芽生え」と「自覚的な学び」をつなぐ

小学校への理解・子ども理解・子どもが感じる状況の変化（段差）の理解が重要

保育内容や子どもの姿を小学校と共有し、お互いに理解し合うための対話が、幼保小の連携をより深めます。子どもが安心して新生活を送れるように、幼保小の段差をなるべく小さくすることが大切です。

ポイント



授業中、座ってられるかしら？
園でも45分間座る練習をした
方がいいの？

45分間ずっと座って授業して
いません。やってみよう！という
意欲を十分に育みましょう。



子どもを見る3種のまなざし

後ろからながめるまなざし

発達や育ちにとらわれ
「できる」「できない」で
子どもを観察する関係

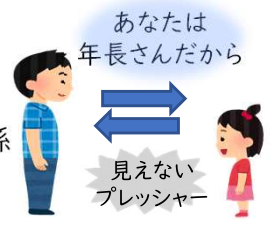
上から目線



向かい合うまなざし

「期待される子ども像」を
押し付け、子どもも期待に
応えようと頑張ってしまう関係

強すぎる目力



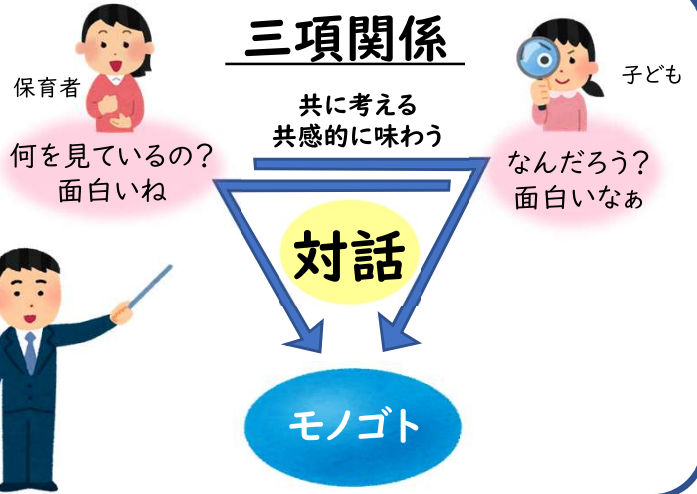
横並びのまなざし

高いところからものを見ずに、子どもと並んで
共にやってみる(感じる)ことで、子どもが何に
面白さを感じているのか、一緒に味わう関係

ポイント ここに生まれる「対話」が重要

わたしとあなたは、違う考え方をもって。同調しなくてもよい。理解に正解はない。

この関係性が大切!!



対話…相手(ヒト・モノ・コト)を理解しようすること

子どもの主体性を尊重した保育

なんでだろう?
おもしろい!

ポイント

思わず
わくわくする
環境・仲間が大切

子どもの「やりたい」
から始まるのが大切
(興味関心や問い)

子どもは、身近な環境に主体的
に関わり試行錯誤する

保育者は、活動が豊かに展開される
ように環境を作る

子どもは、興味関心を一人では
なく、友達や仲間と共有したい
一人の子の「よさ」が認められ、
その子の「よさ」が他の子に広がり、
新たな関係が生まれ響き合う

共主体 大人も、子どもと ともに学ぶ、ともに悩む、ともに楽しむ

子どもだけで主体的な保育は展開されません。保育者もわくわくすることが大切です。

質疑応答

友達と交わることが難しく、いつも一人で遊んでいる子がいます。友達との関わりをもたせたいのですが、どうしたらよいのか悩んでいます。

友達と一緒にさせようとせず、その子の楽しんでいる世界に周囲の子が気づけるようにしましょう。その子の始めた遊びが広がっていくように、まず先生自身がその子の楽しんでいる世界と一緒に楽しみ、周囲の子どもたちも仲間入りするような援助を心掛けましょう。

急いで友達関係を構築しようとし過ぎずに、その子の今の困り感をわかってもらうことが大切です。

無意識のうちに「年長らしく」と言葉や見えないプレッシャーをかけていたことに気づきました。子どもが見ている世界と一緒に喜び、楽しめる保育をしていきたいと思います。

研修生の報告書より